

7779 <sup>kuraku</sup>久楽 東海道 53 次：薩た峠にて 305



# 山はみどり 野に花 人にははこころ


## 風光明媚な絶景の地

その昔、現在の富士市から興津川河口一帯を田子の浦と呼んでいました。万葉の歌人、山部赤人の有名な歌は、この付近から詠まれた歌ではないかと伝えられています。


田子の浦ゆ、うら出てみれば 真白にぞ  
不二の高嶺に 雪は降りける

また享和元年(1800)狂歌師の蜀山人(大田南畝)が峠にあった茶店に休息した時、小さな鯛が目に止まり亭主に訊ねると、山の神だと返事したのが面白く即興で作った狂歌が薩埵峠の名を有名にしました。


山の神 さった峠の風景は  
三下り半に かきもつくせじ



(由比之図 保栄堂版/歌川広重画)



(由比之図/歌川広重画)



(由比之図/歌川広重画)



天候が快方へ、神様が味方、有難い